工業っ子

NO.064
ー発行日ー
2012.05.24
ー編集ー
長崎工業高校新聞部
ー発行ー
長崎工業高校新聞部

長工生の道もこの一歩から

急がば回って友情深めろ！

歓迎遠足
ソフトテニス　優勝！！
ヨット部、2回目の塩釜高校との交流

歓迎遠足

▲ワイワイ、元気な一年生！

四月二十七日に行われた歓迎遠足。今年も例年と同じく、かきどまり陸上競技場へ向かいます。その内容は、歓迎遠足という名の登山。二日前までの悪天候で悪い足元、きつい急斜面…。そのため、慣れているはずの二、三年生もかなり苦戦した様子。一年生にとっては、ある意味「想定外」の遠足となったようです。

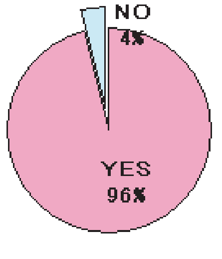
生徒会主催の借り人競走では、各クラス三人の代表がコースを走ります。例年と同じく、様々な内容が書かれた紙があり、参加者は書かれてある通りの人を集めるのに苦労していた様子。一方、ギャラリーは大盛り上がりで、とても楽しそうでした！

▶生徒会、歓迎行事スパイダーマンと一緒♪

一年生50人インタビュー

そんな歓迎遠足を他の一年生はどう感じているのでしょうか。突撃インタビュー！

「歓迎遠足は楽しかったですか？」



九十%以上の人たちが歓迎遠足を楽しかったと感じていた様子。登山も友達と話しながらだと、楽しむことが出来たようですね。

「楽しかった理由は？」

友達とお菓子を食べたこと／レクレーション／借り人競争／道のりがきつかった etc…

今回の学校行事を通してクラスや学科の人たちとても仲良くなれたのではないでしょうか。

そして、来年の為にこんな質問を。

「遠足のお菓子といえばこれ！」

一位…ポッキー
二位…グミ（果汁グミ・ピュレグミなど）
三位…じゃがりこ

ポッキーは、種類が多く持ち運びやすいところが人気の理由！グミは食感、食べやすさが良いところ。色んな種類のグミが挙げられていました。じゃがりこは、友達と食べ比べが出来るのが楽しいですよね。

一年生の皆さん、ご協力感謝です！

風土で発電

先日、四十二年ぶりに原発の稼働が停止しました。東日本大震災の福島原発事故をきっかけに、多くの原発の停止、再稼働を巡って問題になっています。この問題、簡単には決着はつきそうにありません。

今回、別の発電方法を考えてみました。

日本と同じ火山大国であるアイスランド。そこでは電力の百%を地熱発電で補っています。この発電で出る熱湯は、発電所の近くで入浴施設として利用。各家庭でも部屋中に張り巡らされたパイプを温水が循環し、部屋全体を暖め、暖房が必要ありません。家計にも優しい。アイスランドは全家庭ＩＨ。ガス代という概念が存在しません。

地下深くの蒸気で直接タービンを回して発電する「地熱発電」。この発電は環境に無害。たくさんの恩恵を受けることが出来ます。日本国内の発電率は全体の〇・二%。かなり低い。なぜ、同じ火山国なのに日本では普及していないのか。何よりも地熱発電施設の設置費用の莫大さ―一カ所で約三百八十億円―が挙げられています。しかし、アイスランドの例を見ると何とか出来る方法もあるのではと思えます。

このほかにも自然を利用した発電には波力発電や潮力発電などもあり、海洋国イギリスが力を入れています。日本も海洋国です。ここにも可能性があります。今まで省みられなかった風土を活かした発電。原発問題が無かったらここまで関心が向かうことはなかったでしょう。そして、これらを生かしていくのはこれからの私達です。

困ったところから次の可能性が生まれる―学校生活の中で問題にぶつかったときも、もう一度、周りに目を向けると、今まで見えてなかったヒントが見えてくるもの。石ころは意識しないと見えないものです。（藤田）

ー個性派揃いのー 科別交歓会

歓迎遠足と言えば「科別交歓会」。各科とも工夫を凝らし、楽しい会となったようです。と言うことで各科リーダーの三年生に交歓会について次のことを聞いてみました。

①交歓会の内容。
②工夫したこと。
③一年生の反応は。
④どんな科にしたいか。

それでは、どうぞ☆

□機械科
①相撲。歌自慢。一発ものまね。コーラの早飲み。
②ただみんなを楽しませたかった。
③書けるような内容じゃない。
④競技大会優勝。

▼コーラの早飲み。ゲプ。

□機械システム科
①騎馬戦。一発ギャグ。モノマネオールスター。
②景品を充実させた。
③爆笑の嵐。
④面白カッコイイ科。

□インテリア科
①じゃんけん列車など。
②学年が違う人とも仲良く。
③楽しそうだった。
④楽しくけじめのある科。

▲完璧な出来！？チョコレイトディスコ♪

Wonderful▼筋肉！！

□電気科
①一年生の自己紹介。ガチ相撲。
②内田を登場させた。
③大爆笑。
④地味でも主役になれる。

□工業化学科
①一年生の自己紹介。相撲。一発芸。
②お菓子を準備したこと。
③あげぽよ。
④仲良し。

□建築科
①相撲。コーラの早飲み。一発芸。
②全員が一体となって盛り上がれるようにした。
③ノリが悪い。
④一番楽しい科。

□電子工学科
①科長の挨拶。一年の自己紹介。一発ギャグ。
②どのタイミングでも笑いに持って行けるよう無茶ぶりした。
③緊張してるのか表情が固い人がいた。
④とりあえず明るいクラス。暗いと楽しくない。いきいきとした学科。それが理想です。

□情報技術科
①コーラの早飲み。ドッジボール。一発芸。
②コーラを健康に気を遣ってZeroにした。
③一発芸で大爆笑。
④地味な科から普通の科へ。

今年も各科、大盛り上がりだった様子。各科の団結が学校全体の団結に繋がると良いですね☆

ソフトテニス 高総体に向けて好発進 祝、地区予選優勝！

▲ハニカミsmile いただきましたー！

四月二十一日、高総体地区予選でM1平川君とM2松下君のペアが見事優勝という、六月の高総体に向けて活躍が期待できるニュースが舞い込んできました。平川君がテニス歴六年、松下君がテニス歴四年。次に向けて練習に励む二人に話を聞きました。

Q今の気持ちを一言、お願いします。
―本戦（県大会）で勝てるようにしたい。

Qプレーするときに一番気をつけていることは。
―リズムをくずさないこと。

Q大会前に心がけていることは何ですか。
―ウォーミングアップ、気持ちを整えること。

二人はとても仲のいいペアのようで、大会前に心がけていることはという質問では、それぞれが考えた意見がピッタリ一致していました。

また、「先生や保護者、応援してくれた仲間たちには感謝しています。」とも話していました。

県大会に向けて調整で忙しい中のインタビューでしたが、丁寧に答えてくださり、ありがとうございました。

次の県大会での活躍を期待しています。（内田）

青春日記

ゴールデン・ウィーク。皆さんはいかがお過ごしでしょうか。私の友人はおばあちゃん家に帰省したり、友達と遊びまくったり、家から一歩も出なかったり…。みんな充実した休みを過ごしたんだなぁと羨ましく感じます。私は取材でしか外出していません。寂しいことに。

この号に掲載されているヨットの取材へ私に出動指令が届きました。しぶしぶ休日出勤に応じ、先生の車に男二人、揺られながら着いたは福田。その日は快晴。澄み渡る雲一つ無い青空。心地よい海風。ほのかな磯の香り、どこまでも続く水平線。なんだこのロマンチックな景色は！シチュエーションは！こんなんで隣に麗しい乙女なんぞがおれば…もっと言えば夕日なら…もう言うことなどないッ！しかし隣にいるのは野郎が一人。現実とはこうも残酷か。

感動したことがもう一つ。外海の水平線はどこまでも続いていることを改めて感じたこと。私の地元の長与港からはどこを見ても、見えて来るのは向こう岸。そう、ご存じの通り大村湾は内海。何となく閉鎖的。それに比べ、福田の広く美しい外海は開放感に溢れ、生命の美しさと世界の広さとか、そんな感じのなんたらかんたらを教えてくれた気がします。

段々と傾く太陽。水平線が醸し出すロマンチックさ。それが加速させる人恋しさ。暴走する私のロマンチック・エンジン。気丈な我が魂は、へし折られ、思わず誰かを抱きしめたい衝動に駆られる私。でも隣にいるのはやっぱり野郎が一人。鳴呼、もどかしい。誰か私にもっと愛を。

水平線と海の美しさに気付かされた私のゴールデン・ウィーク。そうだ、今年は伊王島に行こう。白い砂浜、蒼い海、西瓜のビーチボール。そして一番大切なのは水着のお姉様方…おぉっと、さっきまであったあの純粋な気持ちはどこへ行ったぁ！ああ、俺なんて海に呑まれてしまえばいいのに…（古賀）

長工ヨット部 塩釜高校と合同練習
―震災をきっかけに交流

五月三日から三日間、福田のサンセットマリーナで長崎工業ヨット部と宮城県の塩釜高校ヨット部との合同練習が行われました。塩釜高校とは昨年の東日本大震災がきっかけとなり、交流がスタート。初の合同練習の実施を聞き、現地に駆けつけ取材を行いました。

現地に到着すると、ヨットはまだ海上に。強い風の中、海面を切って力強く進んでいました。

今回は昼休憩の時間を少し頂いて塩釜高校の皆さんにいろいろお話を伺うことになりました。

待つ間に練習の様子を見学していると長崎工業と塩釜高校が真剣かつ和やかな雰囲気であるのが伝わって来ました。

まずは塩釜高校ヨット部の部長の樋口絢美さん（三年）に合同練習の感想を聞いてみました。

―どんな海か不安だったけど、とても綺麗で練習しやすい海だった。目標にしている長工に、自分たちに足りないものを学びたい」とのこと。

また、震災後の現状について、

―ヨット部は船が流され、廃部の危機にもなったが沢山の人々に助けられ今活動出来ている。高校は高台にあったため、被害はあまり大きくなかった。今は大分順調に復興が進んでいる。

と、被災地の今を語ってくれました。インターハイでの目標は、「長工と上位に入り、先輩の記録を抜くこと」。

▲長崎の海はどうでしょう？

▶練習の成果やいかに！

続けて塩釜高校の部員五人にも次のことを聞いてみました。

①長崎の印象。
②今回の練習で得たもの。
③長崎で行ってみたい所。
④長崎で食べたい物。
⑤仙台で食べて欲しい物。

■小林さん（三年生）
①しぶとい感じ。気持ちが力強そう。
②インターハイに出るという目標。
③中華街。
④カステラ。
⑤ずんだもち。

■中畑さん（三年生）
①緑がいっぱい。仙台はこの季節だと十五度くらいなので暖かい。
②インターハイで優勝した学校と練習ができてうれしい。
③ハウステンボス。
④枇杷。
⑤牛タン。

■相澤さん（三年生）
①真っ直ぐな道がない。海がきれい。ヨットの環境や設備が整っている。
②技術以上に精神面で見習う所がたくさんあった。
③ハウステンボス。
④カステラ。
⑤利休の牛タン。

■秋本さん（三年生）
①暖かい。夜景が綺麗。
②技術面。レベルの差を感じた。
③稲佐山。
④カステラ。
⑤利休の牛タン。

■千葉さん（三年生）
①あったかい。
②周囲に気を配ること。
③龍馬のゆかりの地。
④カステラ。
⑤現在復興中の自分の家のお店の肉豆腐。

塩釜高校の皆さんは、風が強く、肌寒い中でも笑顔で答えてくれました。

また、塩釜高校ヨット部の顧問、伊藤先生は：

―前の学校で長崎であった平成十五年のインターハイで優勝したこともあり、凄く思い入れがある。生まれ変わるなら長崎というくらい長崎に良い印象がある。

と、長崎にとても良い印象を持っておられました。また、今回の練習の感想を伺うと…

―とてもいい経験をさせてもらった。このような機会をもらえて、生徒は幸せだと思う。合宿が出来たことで満足せず、これをインターハイに活かし、長工と塩釜で互いに良い成績を残したい。

と仰いました。

▲塩釜高ヨット部と共に

取材を通して復興中の被災地にあって高い目標を持ち努力し続ける塩釜高校に深い感銘を受け、それと同時に長工が背負う日本一の重さに気付きました。

両校の活躍を期待します。

私の倍以上走った友人へ…。
人生についてー つ学びました。

生徒総会
―昨年より一歩前進 要望への意見も出る

五月八日、平成二十四年度生徒総会が開催されました。まずは、毎年恒例の生徒会予算の決算、各専門部の活動の紹介。

その後、マナーアップ運動と5S運動についての説明。そして、主な議題となったのが文化祭の開催日について。事前のアンケートでも要望が多かったこのことに関して例年とは違い、総会の場でも生徒から活発に意見が述べられました。

さて、今年の生徒総会の評価を生徒会長へ聞いてみました。

Q総会に点数をつけると。

―五十点。理由として、想像できない展開に飲み込まれギリギリまでバタしてしまった。また、議事進行の打ち合わせでトラブルがあったから。

Q上手くいったところ、いかなかったところを。

―みんな顔を上げてくれていて、生徒から意見が出て盛り上がった。来年は議長とのコミュニケーションを上手く行うといいと思う。

Q文化祭に向けて今後のどう活動しますか。

―先生たちにヒントをもらい、生徒が改善したほうがいいところを改善し、活動をしていく。

Q今、みんなに伝えたいこと、ありますか。

―一人一人が協力して、みんなで変わっていきましょう！

今回の生徒総会の感想を何人かに聞いてみると、「昨年より楽しい総会だった」「意見がたくさん出た」「笑いも起こった」と、去年よりも少しは生徒総会への評価がありました。しかし、意見を出すのにためらう様子も見られ、雰囲気作りと意識の向上がこれからの課題のようです。

▼中には熱い意見も！

▶フロアからの疑問に真摯に答えます

しおかぜ総文祭に向けて
～本校新聞部も絶賛大活躍中

来年開催の「長崎しおかぜ総文祭」。その広報紙「総文ニュース・第三号」を長工新聞部が担当し、制作しました。

第三号の内容は大きく二つ。一つ目が五百日前イベント。三月十八日にベルナード観光通りで行われ、吹奏楽や合唱はもちろん吟詠や郷土研究など多様な文化部・専門部がパフォーマンス。生徒、顧問の先生に加え、観客の方々にも取材を行いました。華やかなパフォーマンスに目を奪われつつの取材となりました。

二つ目は、県庁で行われたしおかぜ総文祭の第一期実行委員長決定の記者会見。一般の報道陣と同席し、終始緊張しつつも和やかに密着取材を行いました。

しおかぜ総文祭の開催に向け、着々と準備は進んでいます。全国の文化部が結集する総文祭。これをきっかけに文化部の認知度が上がり、益々活発になることを願います。

なお、ここで紹介した内容の詳細は、総文ニュース第三号をお楽しみに。

▲POPな演奏♪ in観光通り（東高）

▲本校新聞部、活動推進校に。

一年生な☆日々

夏が近づいてきました。汗かきな私にとって、この暑さはまさに生き地獄。滴るものが水ならいい男なのですが、それが汗となってはただの別物。悪臭系男子とでもいいましょうか。そんな中、活動している運動部の方々、本当に尊敬します。

さて、私、ゴールデンウィークに叔父さんに招待され、初めて結婚式なるものに出席しました。結婚式、それは永遠の愛を誓い合う神聖な儀式―しかし、私にとっては、絢爛豪華な食事に出会える貴重なイベント。極限まで腹を空かせて臨みました。私の主義は―「料理は名前から」。美味な料理は名前からして美味しそうなのです。私はメニューを引きちぎらんとばかりの勢いで開きました。そこに広がる未知の文字。フランス語か、隣に日本語訳があるも理解不能。何々メインディッシュは、「牛ロースのロティ軽くスモークした（中略）レフォール入りのジュ」？想像できない。期待よりも先立つ不安。

そしてその実態は…黄色のソースがかかった高そうなお肉。でも普通のステーキとの違いはどこ？名前と現実とのギャップに動揺しつつ、美味しくいただきました。いつか、こんな状況でも冷静に味わえる大人の男になりたいなぁ。

（山田）

編集後記

さて、歓迎遠足も終わり、一年生は学校生活にも慣れてきた頃でしょうか。

部員も増え、少しは楽出来るかと思えばスケジュールは詰め詰め、発行部数は増えよいよ高総体事前取材号。一週間弱で仕上げて発行予定…頑張ります。